

勝林寺寺報

間を誕生させ、育てることができるようになり、それをクローリン人間というわけです。

クローエン人間のこと

先日、京都の家の小さな畑に、数本のキュウリの苗を買ってきて植えました。最近のキュウリの苗は、カボチャの台木にキュウリの穂がついており、とても元気に大きく育ちます。このように、植物の接ぎ木の方法は、もう三千年の昔から、また、挿し木の方法は、五千年の昔から行われていたといいます。

究が、世界のあちこちですすめられております
もしもこのような技術が成功したら、人間の医学に、大きく貢献することでありましょう。
しかしながら、こののようなバイオテクノロジー（生命工学）の発展の結果、もしも、世界の各地で、次々とクリーン人間が生まれることとなつたら、いつたいどういうことになるのでし

現代では、そのような技術がさらに進歩して、
その芽をもつと小さくして、細胞単位までにし、
それを育てることによって、一度にたくさんのが

ようか。人間が原子爆弾を作った罪と同じよう
に、今人類は、とんでもないような、新しい罪
を犯し始めているのではないでしようか。

同じ植物をつくることができるようになりまし
た。細胞培養とよばれるものです。接ぎ木には

(信楽峻磨遺稿法語集より引用)
(2001・5月)

台木からり 接し木には砕や土が必要ですか
この細胞培養には、化学薬品を母胎にして育て
ます。このようにすると、一個のキュウリから
十万本の苗がとれるといわれます。近頃、カト
レアなどの洋蘭が安く売られているのは、この
ような細胞培養によって、大量の苗を育てるこ
とができるようになったからだそうです。この
ような方法をバイオテクノロジー（生命工学）
といいます。

今日では、ときどき新聞で、「クローン人間」ということが話題になっております。このクローンという英語は、もともとは小枝の集まりを意味し、「さし木」という意味に用いられておりました。しかし今日では、上に申したようなバイオテクノロジー（生命工学）の発展延長によって、人間を、男女の両性にもとづかないで、人間の細胞を培養することによって、一人の人



(信樂岐麿遺稿注語集 二〇二三月)

六月一七・一八日、よい天気の中楽しく無事に
納骨研修旅行を終えました。今年の参加は、二
九名、例年よりやや少なめでしたが、その分た
いへんまとまりがよく、気持ちよく旅をさせて
いただきました。親ばか承知でのご報告ですが、

バスの中では、後細住暗が、平等院を淨土真宗とのかかわりを交えて、とても分かりやすく説明してくれました。また、順光寺参拝では、次男の入海が、とてもしつかりとした声で「重誓偈」のお勧めの導師をしてくれました。どちらも、参加いただいた皆さんに大変喜んでいただきました。

期日	平成二九年
七月八日（土）	午後七時三〇より
七月九日（日）	午前一〇時より
朝来組 西方寺 ^{ハシマツジ} 住職	

永代経のご案内

今年も、勝林寺に本格的な夏の訪れを告げる
永代経が勤まります。お忙しい毎日の中、しば
し本堂でゆっくりといただいたいのちの尊さに
気づかせていただきましょう。なお、「永代経志
を仏婦評議員様に集めていただきます。

卷之二

七月 勝林寺 予定

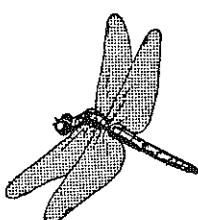
一日 (土)	おみがき奉仕
三日 (月)	正福寺 永代経
五日 (水)	山田富雄宅 三回唱
七日 (金)	湯口修次宅 一七回唱
八日 (土)	兵庫教区 教区会
九日 (日)	勝林寺 永代経
一〇日 (月)	勝林寺 永代経
一四日 (金)	出石組 連研委員会
一五日 (土)	平野克彦宅 三回唱
	初田一三宅 一周忌

一六日（日） 関岡孝繕宅 忌明法要
一七日（月） 出石組弘壯報告總会（光顯寺）

二三日(日)	山田正視宅	一周忌
二六日(水)	清水正和宅	一周忌
二九日(土)	岩上悟宅	一周忌
三〇日(日)	出石組 サマースクー	

二六日(水) みのりを聞く会
二九日(土) 岩上 一 周忌
三〇日(日) 出石組 サマースクー

西宗寺



(敬称略)

それからどうする

昔の中国にこんな伝説があります。

仙人——厳しい修行を積んで一定の境地に達し「不老長寿」になることができる人——があぶない木の上で瞑想修行をしておりました。その木の下をたまたま通りがかった若いお坊さんが、足を止めて不思議そうにその仙人を見上げて申しました。

「あなた、いったい、そんなところで何をなさつているのですか。」仙人は胸をはって答えました。「いまやっているこの修行完成したら、私はあと二百年生きられるのじや。」するとお坊さんは、益々不思議そうに問いかけました。「あと二百年生きて、それから、どうなるのですか。」

この話は、七高僧のうちの第三番目蠻蠻さま

がお念佛の道におはいりになるきかけを語る

話のようです。「それから、どうなるのですか。」二百年長生きしても、その次にはやはり死がやつてきます。一日でも長生きしたい。一日でも若くいたい。一日でも健康で暮らしたい。一日でも楽しく暮らしたい——そう願うのは、いつのですか。何のために健康でありたいのですか。ただ長生きして、それからどうするのですか。ただ健康を願って、それからどうするのですか。

お念佛は、如来の永遠のいのち（無量寿）に生き返らせていただく道です。せつかく人と生まれてきたからには、ここで如来無量寿に生き返らなければなんにもなりません。ただ生きて、ただ死んで、それだけです。悲しいではありますか。如来に出会いに生まれてきたこのいのちを大切に生きましよう。如来のいのちの中のこの一日一日を、丁寧に生きましよう。南無阿弥陀佛のいのちに摂め取られて生きる今日のこのいのちに、かしづく思いで健康には気を付けています。（前住職「テレホン法話第一集」）

法語カレンダー七月（HPより一部抜粋）

功德の宝海

みちみち

煩惱の湯水

へだてが



住職が入院しました。とは言つても、注射が怖くて病院嫌い。「あれがある、これがある…」と仕事を理由に病院行きを拒否して何年にもなります。最近は、自分でも気になつていて、やつてあるので、娘に誘い出してもらつて、やつと病院へ行きました。十時には行つたのに、終わつたのは夕方五時すぎ。四日後の連休明けに「とりあえずの処置としての手術」と宣告され

て入院生活が始まりました。

少しでも、気が紛れるようにと思い、何冊か

の本を持つて行きましたが、手術が心配で読んでも頭に入らないと言います。ある時「夜、一

人になると、ここから飛び降りて死んでしま

たい。そんな気にもなる…」と住職が言いました。

されたのだから、その不安と怖さは、私に推し

量れる域ではない、と思いつつも、思わず「死

ぬつもりなら、入院しなければ良いでしょ」と笑つてしましました。「三十分で終わる手

術は、大勢の人が皆やつてきていることじやないの」。そう言い放つた私の言葉に「そうだな、

そう言えばAさんも、Bさんも、そんなことを

言つていたな」と住職。私は「あなたが執刀す

る訳じゃないんでしょ。やつてもううんだから、

おまかせするしかないじやない」と言うのです

が、住職は「それはわかっている。だけど一人

になると、どうも、次から次へと妄想が浮かん

でくる。なかなか悟れない…。お釈迦様だって、お悟りの前には、妄想で苦しめた。いろんな

悪魔が出てきて惑わすんだ」と。こんなところ

に、お悟りの話が出てきたので、びっくりして笑いましたが、妙に納得してしまいました。こうした生活の中で、冒頭の和讃を読みました。

この句の前には、

本願力にあいねれば　むなしくすぐるひとぞ

なき

とあります。「自分の思いではなく、眞実（本当のこと）に立つ」とにおいて、安心で豊かな道

（人生）がひらかれる」と、親鸞聖人が教えてくださつていて感じます。ところでこの数日

間を思い返してみると、自分の気持ちを表現している住職に対し、私は理屈で、その気持ちを封じ込めようとしていました。もう、いい加減に覚悟を決めて現実と向き合つたらどうなの、それが楽になる道だと、そんな気持ちでした。

ところが、ふと思つたのです。あれは「ダメなあなた、そして、わかつてゐる私」という感覚になつていていたのだ…と。そして、それは、ダメな方は悪で、わかつてゐる方は善という評価です。言い換えれば、住職は悪人、私は善人といふことです。『歎異抄』の「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」（『真宗聖典』六二七頁）の言葉が私によつかりてきました。相手の煩惱ばかりに気をとられて、自分を問題にすることなど、全く思いもよらないことでした。またさまざまな煩惱に翻弄されている住職を助けてあげようと思っていた私は、阿弥陀如来に成り変わるつもりだったのだと思い、一人で大笑していました。

昨日は、八鹿駅に息子を迎えて行った時のこと。降りてくるはずの息子の姿が見えず、ホームをのぞき込んでいると、近づいてきた若く

てきれいな娘さんが「こんにちは」——「こんにちは」と答えながら、娘さんの顔に目を向けて

（いや、きっと、じーっとのぞき込んでいたと

思います）ようやく娘の同級生ではないかと思

い当たりました。恐る恐る「〇〇ちゃん?」と尋ねると「はい」——週末を利用しての帰省だ

そうです。気づいていないかもしないおばちゃんなど無視したつてだれも咎めないのに、声をかけてくれました。その気持ちがうれしくて、別れる前に「声をかけてくれてありがとう」と伝えました。

なかなか本願に出遇えない。そんな私を、深く悲しみ、どこまでも願いをかけ続けてくださいる如来のはたらき。私が気づいても、気づかなくて、その中に包み込まれていたのだと思えます。それでも、短い時間であつても、短い言葉であつても、相手は私のために時間をかける選択をしてくれた時、恩讐讀の歌が心の中に響きわたりました。

「すよね」——小学校に勤務しているころに担任させていただいた女性でした。去年結婚したこと

は知つていましたが、一〇月には、母になると

こと。そういうえば、少しお腹がふつくらして

います。新居のこと、生まれてくる赤ちゃんのこと、仕事のこと…話しかけてくれたことが

うれしくて、手元のお菓子そつちのけで、いつも

ぱいぱいお話ししました。そして、心から

どすん

昨日は、バザールで、奉仕団の

おやつ六一人分を買って、袋詰め

に奮闘しているとき——「西池先生で

ました。

「声をかけてくれてありがとうございます」と

昨日と一昨日、私は同じ言葉を使いました。